〝桐生スタイル〟「イクメン」発進

プロジェクト推進チームが初会合

意見交換 初回から活発に

月1ペースで調査・研究を

桐生市イクメン・プロジェクト推進チームが始動した（市民文化会館で）

県内他市に先駆けた取り組みとして注目される「父親の育児参加促進」などを図る桐生市のイクメン・プロジェクト。その推進役となる「イクメン・プロジェクト推進チーム」の発足式が6月30日、桐生市市民文化会館で開かれた。初回から活発な意見交換が行われ、「イベントなど父親が気軽に集まれる場づくり」「仕事と家庭生活両立」「桐生市（市民）全体での子育て」などを「桐生市独自」にもこだわりながら実践、研究に取り組む一定の方針をまとめた。

リーダーに松平博政さん

同事業は今年度からスタートさせるすこやか子育て事業の主要施策。核家族化の進展などにより、母親にかかる育児の負担が増加、さらに孤立化や育児不安の拡大が虐待にもつながりかねないという課題が表面化する中、父親の子育て参加で、「育児は父母が協力して行う」という機運が盛り上がりを見せていることから、さらに推進していこうと事業化を決めた。イクメンは「子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のこと」。

推進チームは公募の市民7人と市職員3人。いずれも子育て真っ最中のメンバー。発足式では亀山豊文市長が委嘱状と任命状を交付。「みなさんには大きな期待をしていますので、よろしくお願いします」とあいさつ。また役員互選を行いリーダーに松平博政さん（境野町）、サブリーダーに森下径一郎さん（堤町）を選出した。

同チームはイクメン・プロジェクトの事業趣旨のもと「働く男性のより積極的な育児参加」「男性が育児休業を取得できる社会機運の醸成」「仕事と家庭生活との両立」に寄与することを目的に今後、月1回程度会議を開いて調査・研究を行っていく。

100年住宅 KES Enjoy Beautiful Life
私たちは、地球、環境、そして人にやさしい「家づくり」を考えています。
清水開発株式会社
☎53-2580

音訳マップ
答え
「アメリカ（合衆国）」

織物参考館〝紫〟が再開

震災で被害 急ピッチで復旧進め

東日本大震災で被災した桐生市東四丁目の織物参考館〝紫〟が1日から始まった「群馬デスティネーションキャンペーン

建具を用いて出入り口を通り沿いに新設し、入館者以外も訪れやすいようにした。

ノコギリ屋根工場を活用した展示スペースは、東日本鉄道文化財団の支援を受け、織物工場だったころの姿に近づける形で復元。蚕糸の揚げ返し器などの道具も新たに展示した。八王子産地にあった八丁撚糸(ねんし)機

イクメン

きょうは朝から日差しが強く、肌を突き刺す。午前9時には30度を超えた。電力使用制限令も発動となり、電力不足の夏は心配の種が尽きない▼6月30日、桐生市イクメン・プロジェクト推進チームが発足した。子育て真っ最中の10人の父親たちが、男性の育児参加、それをびだしてくる。なんか「若いっていいな」などと思ったり▼話を聞いていて自らを省みる。「仕事を理由に育児は妻に任せきりではなかったか」と思う一方「できることはやってたかもしれない」と自己弁護。「やったこと」は覚えているのだが、「やらなかったこと」はまったく覚えていないことにも気付く。市内の子育て支援センターを

き林